

令和 2 年度日本植物病理学会関東部会開催報告

開催日時

令和 2 年 9 月 28 日（月）10 時～29 日（火）15 時

開催場所

日本植物病理学会 HP 内の関東部会プラットフォーム

参加者数

計 176 名〔一般会員：106 名、学生会員：55 名、非会員：15 名〕

講演発表

〔特別講演〕（オンデマンド形式の動画配信とチャット形式の質疑応答）

佐々 貴洋（ボッシュ株式会社）

「IoT と AI を活用した病害感染リスク予測システム」

〔一般講演〕（オンデマンド形式の e ポスター配信とチャット形式の質疑応答）

計 33 題（うち学生優秀発表賞エントリー数：19 題）

学生優秀発表賞の受賞者と演題

工藤 健央（信州大学大学院総合理工学研究科）

「メラニン化に依存せず付着器から植物に侵入できるコスモス炭疽病菌の特性解析」

王 安（法政大学大学院理工学研究科）

「イネ苗立枯細菌病菌 *Burkholderia plantarii* の病原性関連遺伝子の探索」

坂田 七海（筑波大学大学院生命地球科学研究群）

「コロナチンは *Pseudomonas cannabina* pv. *alisalensis* の 単子葉類および双子葉類への感染における重要な病原力因子である」

生田 実久（明治大学大学院農学研究科）

「ゲノム編集により *eIF4E1* 遺伝子を破壊したタバコの Potato virus Y (PVY) 抵抗性について」

* * *

関東部会の様子は、学会ニュース（第 91 号、令和 2 年 11 月発行）に掲載予定です。

〔文責〕 宍戸雅宏（関東部会長、千葉大学）